

令和6年度 学校関係者評価報告書

東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和6年度自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

(委員長) 村山 忠 元 公益社団法人 園芸文化協会 事務局
(委員) 草間 祐輔 元 住友化学園芸株式会社 普及部長
千葉大学 園芸学部 非常勤講師
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
桃木 好之 本校卒業生
株式会社花弘 営業企画室
江辺 雄亮 本校卒業生
第一園芸株式会社 商品販売事業本部
店舗事業部 総括店長
(事務局) 伊東 政信 学校法人伊東学園 理事長
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
水本寿美江 同 教務部長
小池 智子 同 教務副部長
永井 建 同 総務部長

2. 実施日時 令和6年10月16日(水) 14:30~16:30 於. 4階教室

3. 令和5年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

- ・引き続き、時代の流れとニーズを掴み、学校の将来像や目標をより具体的にすること。そのためには教職員や講師、業界、卒業生等より情報を得ること。
- ・将来像や教育理念、目標を明確にすること。目標到達点を明確にすることで、引き続き業界に本学を理解してもらうことに繋げていくこと。

2) 学校運営

- ・学校運営についても前記1)の教育理念・目標が必須であるため、より具体的にするための事業計画を教職員や講師に浸透していくこと。
- ・情報システム化については、規模が小さいことを利点として学生とマンツーマンにコミュニケーションをとることを引き続き心掛けていくこと。アプリケーション利用で、電話連絡等直接接するのを苦手にする学生が増えている。業界に送り出すためであるためその指導も行っていく。

3) 教育活動

- ・授業評価の実施については、講義形式の授業からアンケート開始した。講師の方よ

り学生の理解度など学生の状況が掴めたので、結果をどうように取り扱い教育内容の改善に繋げるための考察しながら実施していく。

パソコンの活用能力に差が開いている。スマートフォンの活用はたけている学生が増えている。プレゼンテーション含め、業界でも必須になっているので、活用能力の向上の対応を考えていく必要がある。

4) 教育成果

- ・前年よりも退学率は上がった、技術も含め学習能力の低下、将来の仕事として考えず入学する学生が増えている。そのため入学後、業界の良さを伝えることが必要。対応策のひとつとして、入学選考で全員に面接試験を再開し、入学前に学生把握につとめる。

5) 学生支援

- ・卒業生の支援に対し、現在の業界や学校の状況を伝えたり、卒業生の再度の学びの要望を学びを強化していく。

6) 教育環境・施設・設備は計画的に整備を続けていくこと。

- ・行事については国内研修旅行を新型コロナウイルス感染対応前に戻して実施した。海外研修旅行の再開についても今後、必要性も含め検討していく。

7) 学生の募集と受け入れ

- ・将来の進路を決めている入学希望者が減少しているため、進路希望で就職希望者と同様に職種密接の専門学校進学希望者が割合として減少している。そのため業界の魅力をしっかり伝えて入学希望者の定員確保にさらに努めること。

8) 財務

- ・財務基盤安定のために、学生募集をはじめとした収入確保と経費節減に努めていくこと。

9) 法令等の遵守

- ・特に問題ないと思われるが、早期に自己点検・評価の指摘事項の実施に努めること。

10) 社会貢献

- ・ボランティア活動に限らず、アルバイトやイベントへの参加など、学生にいろいろな経験をさせていけるとよい。

3. 総評

上記 10 項目について、東京テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、一部の項目については、さらなるレベルアップを図るための意見、提案が出されたことから、今後一層の注力を望みます。

以上

東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
令和6年度 自己点検・自己評価報告書

ー令和5年度分ー

令和6年8月

学校法人 伊東学園
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校

学校法人 伊東学園 東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
令和5年度 自己点検・自己評価

平成19年に改正された学校教育法及び学校教育法施行規則により、専修学校・各種学校においては「自己評価の実施と評価結果の公表が義務化」され「学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化」された。これに伴い本学でも、より教育の質を高め、社会から信頼される学校を目指し、自己点検評価内容の公表を行うこととした。点検は、文部科学省のガイドラインを参考に10項目について行った。

学校法人 伊東学園 東京テクノ・ホルティ園芸専門学校
自己点検・自己評価委員

委員長	理事長・校長 伊東 政信
委 員	教務部長 水本 寿美江
	教務副部長 小池 智子
	総務部長 永井 建

1.学校の教育目標

教育目標(育て上げようとする人物像)

- ・企業から喜んで迎え入れてもらえる人材
- ・花と緑を通じて人に豊かな気持ちや安らぎ、心地良い環境を提供できる即戦力たる人材
- ・働くことに夢と誇り、やりがいを感じることでできる人材
- ・常に向上心と自らの目標に関する事柄に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らない人材
- ・将来のオーナーやデザイナー、第一線で活躍を目指そうとする人材

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・学生の夢や希望をかなえるために全力を尽くすこと
- ・多様化する社会に対応するためにより魅力的で、実戦的な教育内容とするべく、研究・研鑽を怠らないこと
- ・新型コロナウイルス感染症が5月に5類へ以降したが、教職員、学生ともに引き続き感染防止に努めていくこと

＜学生の学力などの低下がみられるため、充分に対処すること＞

- ・コミュニケーション能力、基礎学力の向上を図ること
- ・卒業後の目標が不確かな学生に対しては、根気よく指導を続けること

＜卒業後の進路の拡大を図ること＞

- ・就職先をさらに提供するために、卒業生や既存の企業とのつながりを太くし、同時に新規企業を開拓すること

＜授業内容の高度化を図ること＞

- ・授業・実習に対する学生からの評価を生かして、授業内容の高度化と、授業に対する魅力を高めること

- ・分け隔てなく学生募集に協力すること

- ・同時に、募集対象者を高等学校既卒者などに広げるなど、収入増の取り組みを行うこと
- ・施設・設備・什器等の管理や財務基盤についても関心を払うこと

評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	○				
2	学校の特色はなにか	○				
3	学校の将来構想を抱いているか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学校の理念・目的・育成人材像は定められており、学校の特色もパンフレットやホームページを通じて外部にも発信している。引き続き、実現につとめていく。

②今後の改善方策

3年、5年後の社会情勢を見据えた学校の在り方や教育内容の方策を引き続き改善していく必要がある。新カリキュラムの導入、さらに今後もマイナーチェンジをしながら教育内容を改善し業界がもとめる人材育成に努めていく。

③特記事項

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、引き続き感染症対応に気を配りながら、コロナ禍以前の各種行事や授業を実施した。

(2)学校運営

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	運営方針は定められているか			○		
2	事業計画は定められているか			○		
3	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか			○		
4	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか			○		
5	意思決定システムは確立されているか			○		
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

運営方針や事業計画は定められているので、引き続き、今後も外来の講師も含め全教職員に浸透していきたい。

②今後の改善方策

学校運営に関する事項については全教職員で引き続き共有していく。
教職員の高齢化、今まで以上に学生個々の対応が増えていることから、今後の教職員増員、育成の必要がある。

③特記事項

(3)教育活動

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか		○			
2	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか		○			
3	カリキュラムは体系的に編成されているか		○			
4	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか		○			
5	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか		○			
6	授業評価の実施・評価体制はあるか		○			
7	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		○			
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	○				
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	○				
10	資格取得の指導体制はあるか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

課題になっていた授業評価の実施は、常勤教員担当の一部授業から実施した。
外部からの職業教育への評価は、引き続き、教育課程編成委員会の開催で継続実施していく。

②今後の改善方策

授業評価の実施・評価体制は常勤教員担当の一部授業から実施した。
業界に就職する際に必要なスキル、専門学校としての指導レベルを考慮しながら、今以上のカリキュラムの充実が必要である。教育課程編成委員会での外部からの評価はカリキュラム・授業内容の編成にあたり、引き続き取り入れていかなければならない。

③特記事項

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、引き続き感染症対応に気を配りながら、コロナ禍以前の各種行事や授業を実施した。

(4)教育成果

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	○				
2	資格取得率の向上が図られているか		○			
3	退学率の低減が図られているか			○		
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか		○			

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

年度によって若干の変動はあるが、就職率、資格取得率については高水準を保っている。退学率は年間10%前後で推移しているが、令和5年度は65名在籍、1年生26名中6名退学、2年生39名中2名退学、退学率12%と昨年(在籍75名中5名退学)を上回ったが、引き続き低減させるようにしたい。

②今後の改善方策

就職率、資格取得率は数字だけでなく、積極的な企業開拓や取得させる資格の取捨選択を行い、質の向上を図っていく必要がある。退学率については保護者とも連携し、一層の低減を図っていく。

また入学前から対応の1つとして、次年度より受験生全員に入学選考として作文試験、面接試験を再度実施することにした。

③特記事項

退学者については、精神面や健康面、学習意欲の低下ばかりでなく、多様化する家庭環境の状況で個々の退学理由が変化してきている。

目的意識を高く持って入学してくる学生ばかりではなくなってきているので、入学前からの対応が必要となっている。そのため前段②にも記載した入学選考の試験を再度実施することにした。

(5)学生支援

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	○				
2	学生相談に関する体制は整備されているか		○			
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか		○			
4	学生の健康管理を担う組織体制があるか		○			
5	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか		○			
6	学生の生活環境への支援は行われているか			○		
7	保護者と適切に連携しているか			○		
8	卒業生への支援体制はあるか			○		

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

担任、教員が普段から面談等を通じて各種の相談は受けている。保護者に対しては、行事や就職活動に関する情報を提供している他、就学状況に問題があった場合には個々に保護者と面談を行っている。引き続き個別対応を継続していく。

②今後の改善方策

卒業生に対しての支援体制は学校側からの積極的な働きかけはあまりできていないため、同窓会組織を整備しながらしくみを作っていくようにしたい。
令和2年度から認定を受けている高等教育修学支援新制度の認定を引き続き受けられるように作業を進めていく。

③特記事項

--

(6)教育環境

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか		○			
2	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	○				
3	防災に対する体制は整備されているか		○			

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

施設・設備の若干の老朽化がみられる。教育活動や学生が求める環境に適応しなくなっている。

②今後の改善方策

教育設備や快適な学生生活を送れる環境整備に少しずつ修理、営繕している。

③特記事項

(7)学生の募集と受け入れ

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学生募集活動は適正に行われているか		○			
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		○			
3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき、行われているか		○			
4	学生納付金は妥当なものとなっているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学生募集については、大幅に減少した前年の新入生に比べ増加した。学生募集の内容については募集要項に基づき適正に行われている。
多くの分野との比較、意思の固まっていない来校者が増えたので、仕事や学校の内容、来校者への対応を引き続き改善していく。

②今後の改善方策

学生募集に必要な教育成果について、何を学び何になれるのかをしっかりと伝えていく。そのためカリキュラムや就職実績等、現状より魅力あるものを提供していく必要がある。あわせて個人の状況を入学前に少しでも把握するための一つとして入学選考時に作文・面接試験を再開することとした。

③特記事項

--

(8)財務

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか			○		
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか			○		
3	財務について会計監査が適正に行われているか	○				
4	財務情報公開の体制整備はできているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①課題

次年度に向けて入学予定者数は増加見込みだが、本年度の入学者数が大幅に減少したため財務基盤の中長期的な安定にはいたっていない。

②今後の改善方策

財務基盤の主となるのは学生数であり、学生数を増やすための魅力あるカリキュラムの作成、充実した就職実績を上げることに注力しなければならない。さらにそれをしっかり伝えていくこと。

また、社会人の学び直しや新入社員研修等、園芸や園芸以外の学びの附帯教育の運営も考慮していく。

③特記事項

(9)法令等の遵守

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	○				
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		○			
3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか			○		
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	○				

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①課題

令和4年度分の自己点検・自己評価をサイトで公開をした。問題点については引き続き改善をしていく。

②今後の改善方策

自己点検・自己評価の結果を継続公開するにあたり、引き続き、委員会の整備、また、委員会委員以外の教職員にも結果とその問題点について共有し、学校全体となって改善を続けていくことが必要である。

③特記事項

(10)社会貢献

評価項目		点検の進み具合※				
		5	4	3	2	1
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか		○			
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		○			
3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか		○			

※ 5:完璧 4:かなり進んでいる 3:普通 2:やや足りない 1:ほとんど進んでいない

①現状・課題

学生のボランティア活動について、学校側からも紹介し、学生からの活動の希望があれば引き続き支援していく。

②今後の改善方策

コロナウイルス感染の影響で中止になっていたイベント徐々に再開してきたので、地域や業界のイベント参加など社会貢献への取り組みを模索していく必要がある。
学生のボランティアについては学校からの情報提供を増やせるようにしていく。

③特記事項

業界のイベントに学生がボランティアで参加し協力した。また業界理解のため高等学校より依頼のあった訪問見学を実施し、高等学校教員、生徒に業界を理解してもらうよう努めた。